

在留邦人の動向

1. 全般的特徴

(1) 在留邦人総数の状況

各在外公館を通じた調査によれば、平成14年10月1日現在、全世界に在留する邦人数（長期滞在者と永住者の合計）は過去最高を更新する873,641人に達した（対前年比4.3%増）。仮にこの割合で増加し続けるとすれば、2006年には100万人を突破することが見込まれる。

（注）長期滞在者：3ヶ月以上の滞在者で永住者でない者

永住者：当該在留国より永住権を認められている者

在留邦人の最も多い国は 米国（315,976人）、次いでブラジル（72,343人）、中国（64,090人）となっている。この順位は前年と同様であるが、中国の伸び（前年の53,357人より20%増）が著しい。

在留邦人の最も多い都市は ニューヨーク（60,993人）、次いで ロサンゼルス（40,106人）、香港（26,267人）となっている。

(2) 地域別内訳

最も在留邦人の多い地域である北米は、前年比1.4%増の352,358人（全体の40.3%）となった。

アジアの在留邦人数は前年比8.1%増の187,952人（全体の21.5%）となり、過去最高となった。

大洋州、中米・カリブ、西欧、中・東欧、中東が増加した（伸び率としては大洋州の伸びが13.1%増と著しい）一方で、南米、アフリカでは減少した。

(3) 長期滞在者及び永住者の状況

長期滞在者数は、587,936人（全在留邦人数の約67%）で前年に比し8.2%増加した。地域別では、アジア、大洋州の伸びが著しい（それぞれ8%、16.9%増）。

永住者は、285,705人（全在留邦人数の約33%）で前年に比し2.6%減少した。地域的には、1位の北米、2位の南米が減少傾向にある。

(4) 男女別内訳

男女別在留邦人数は、平成11年に初めて女性の数が男性の数を上回ったが、この傾向は14年も同様に続き、女性が全体の51.8%を占めた。地域別では、大洋州、北米、西欧で女性の数が男性数を上回っている。

(5) 長期滞在者の職業別傾向

長期滞在者のうち最大の割合を占める民間企業関係者は、前年比6%増の308,745人となった。伸び率は、自由業関係者の伸び（前年比21.9%増の17,132人）が著しい。